

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 佳作
(防災砂防課長賞)

「 災害から学んだ土砂災害 」

岡山県立津山中学校 3年 ほそたに 細谷 あおい 碧生

僕は岡山県で生活しているが、毎年夏休みには祖父母のいる鹿児島県曾於市に遊びに行っている。今年も8月7日から15日にかけて遊びに行った。祖父母の家は宮崎県に近く、よく隣の都城市にも行っていた。8月8日午後家族で都城のイオンに買い物に行っていた。そこで日向灘の地震に遭った。そこは震度5で、今まで体感したことのないような揺れだったがケガもなかった。しかし、翌日の新聞、ニュースを見て驚いた。鹿児島県志布志市では港の近くの山が崩れて地層がみえていた。けが人は地震の揺れによるものだけだったが、もし下に民家が密集していたらと思うととてもこわかった。

また、別日にみたテレビ番組では、地震で地盤がゆるんで土砂災害がおこる可能性が高いと言われていた。大雨で地盤がゆるんでというのは聞いたことがあったが、地震の影響でというのを聞くのは初めてだった。そのためか、家の背後が山というところでもあまり対応が見られなかった。僕のみたところは高齢者の多い地区で、したくてもできなかったという可能性もあるが、このシーズンは台風や線状降水帯の発生など雨も多くなっていて、いろんな人に命を守る行動をとってほしいと思った。

そんなことがあってから土砂災害について考えるようになった。

僕の普段住んでいる岡山県津山市は盆地で、山に囲まれており、小さな山が人口密集地のすぐそばまでたくさんあり、土砂災害に警戒しなければならないとハザードマップ等に示されている場所が多くなっている。

休日、実際に自転車で市内の南部の市街地を走ってみた。すると、山の斜面のすぐ前に民家がならび、場所によっては「落石注意」と書かれた看板のある崖のすぐ前に建つアパートもあった。他の地域もこのような現状なら、そのうち台風など大雨をもたらすものが来たとき、大きな被害がでてしまうだろうと思った。

僕自身、過去にニュースなどの写真や動画だけでなく、実際に発生した現場などを見る機会があり、その恐ろしさを知った。だからこそ、具体的な対応策や解決策をしっかりと考えなければならないと思った。

前の段落で、「対応がみられなかった」と書いたが、土砂災害がおこったあとはブルーシートで囲んだり土砂を撤去したり、しなければならないことは明確だが、発生する前は何をすればいいかあまり分からない。そこで様々な対応を考えた。

もちろん、安全なところに建築物を建てるのが重要だが、今住んでいる場所で考えると、まずメディアの情報に敏感になることが必要だと思う。そして台風等、事前に分かっているものなら、危険な所からなるべく離れた部屋で過ごし、地方自治体によって避難所が開かれたら、災害時の持ち出し袋を持ち、長靴などの足を守るものを履いて、深く考えずに避難すべきだと思う。テレビを見ていると避難している人は高齢の方か子供をつれた人ばかりだった。実際に僕の家でも家族は気楽に考えており、避難しようかという話もでていない。まず、現在の課題として避難しないという

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 佳作
(防災砂防課長賞)

ことが挙げられると思う。これは、避難のしにくさか、災害への考えが甘いかの2つが考えられると思う。前者は地方自治体が広報や改善をしていけばいいと思うし、前者後者ともにメディアが呼びかけをして欲しいと思う。僕自身も、今年はまだ地元に大きな被害は無いが起きたときにはSNSなどを利用して友人や知り合い、また祖父母などの親戚に避難を呼びかけたいと思った。

それに加え、大事なものはヘルメットをかぶって頭を守ることだと思う。日向灘の地震では地盤が緩くなり、地震のあと直径1.5mの岩が山道に落ちてきたという話を聞いたこともあり、ヘルメットの大事さを自身でもよく分かった。

ただ、危険な場所に住む人がいる以上、被害は起こると思う。そこで、自分の力だけではできないが、自治体や国などが安全のための給付金等を出したらどうかと考えた。民家の場合は、個人で建て替えや移動等は金銭的に難しいが、相応の金額や費用の70%補助などすれば金銭的には可能だし、アパートでも「〇年後に解体」として、住民に引っ越しの補助などをすれば可能ではないかと思う。反対に、危険な地域に建築物を建てると、重税がかかれば建てる企業、人はいないと思う。

このような要望だけでなく自分達でできることも模索していきたいと思う。この機会で様々な土砂災害に関することを考えられた。これを生かして、安全のための行動をしていきたい。